

「ウォーター・ジェット」しますか

(一〇八五)

正月早々から「上の口」と「下の口」の話で、誠に恐縮の至り。我が家の一人の子供の「歯みがき」については、私は口が酸っぱくなる位注意し続けたお陰で二人共、何とか完全に習慣付いた。かく云う私自身、幼少の頃これ程までに注意して歯をみがいた憶えは全く無い。その割には、歯医者に連れて行つてもらつた憶えも無い。戦後の甘い物の不足していた時代のせいかもしれない。何しろ、遠足の時母親に買つてもらつた乏しいおやつの中にあつた「練りチューーブ入りチョコレート」の甘さを夢心地で味わつたうれしさを今でも、まざまざと思い出す。ところが、さすがに大学時代の4年間、家を離れ、荒んだ生活が始まってから虫歯があちこち発生し始めた。とにかく治療だけは早めに済ませた。その時、歯医者で見た、あの「ウォーター・ジェット洗浄器」（正式の名称は良く分らない）の威力、能率の良さに圧倒された。「これさえあれば、食後、爪楊枝も要らないし、歯を磨く煩わしさもない。一瞬のうちに、口内清掃が終る。これが欲しくて仕方がない、歯医者に頼んで、何処で買ったらしいのか？いくら位するのか？随分尋ね歩いたが要領を得ない。何しろ医療器具である。そもそもこんな品物を求めるなどと考へる奴など、余程の怠け者か偏屈者だろう。結局ままならぬまま、私も会社に入り何年か経た或る日、電氣屋の店頭で「ナショナル・バナジェット」なる口内洗浄器を発見した。これこそ私が永年求めていた物だ。遂に製品化さ

れ、市場に出たのだ。勿論、即座に買い求め、以来ずっとこの品物のお世話になつてゐる。威力は私が考へていた通りである。食後、これで「ウオーター・ジェット」する。そうすると白い洗面器の内へ、さつき食べたばかりの食べカスが歯の間から次々と流れ出でくる。改めて、今出来たばかりの海苔やタクワンや肉片を、感概を込めて眺めるあの一瞬の何とも云えぬ充実感。歯ブラシで念入りに磨いた後、もう一度ウォータージェットしても尚、次々と出て来るとこをみると効果は歯ブラシよりも秀れているのではないだろうか。とはいっても、やはり油脂分やタバコのヤニ等は、もう一度歯ブラシで磨き取つた方が良い。

さて、「下の口」の方の洗浄については、現在、衛生器具メーカー各社がそれぞれ工夫をこらして発売しており、既にかなり一般化してきた。私も、少々無理をして随分と早く買い求めた。やはり、これに限る。これが本当なのだ。今まで4000年間、人間は後始末の方法を随分と摸索したものだと思う。他にまだいい方法があればひとつみんなで考えてみようではあります。女性用ビデにも使えるそしが、この場合もさぞかし「具合いい」もんか。女性用ビデにも使えるそしが、この場合もさぞかし「具合いい」ものだらうと想像する。噴射角度が後方43度とか。ビデ用は53度だとかいう事だが研究開発が大変だつたろうと思う。唯、使う側から言えば、角度など余り問題では無いと思う。まんべんなく洗える様、要するにお尻を振り廻せばいいのだ。ところでこの「ウォーター・ジェット」洗浄はいいとして、あの「温風乾燥」なるものはいかがなものだらう。発想がいかにも日本

人的である。実際、我が家では「この温風乾燥は使ったことが無い。個人的な意見かもしれないが、まどろっこしくて仕方ないし、第一永年の慣れで「風」だけの後始末でトイレを出るのは何といつても不安である。わずかばかりのトイレットペーパーで、さっと水を一拭きすればそれで済むことである。それに、拭いた紙をしみじみとながめ「何と、きれいになつたんだろう！」という感慨にふけるのが又良い。案の定、2年前から温風乾燥なしの洗浄機が発売され始めた。最後に、おー」とわりしておきますが、私は歯槽膿漏持ちでも、痔疾持ちでも、便秘持ちでもない、至つて健康な男でござります。